

『育英学園とは何か』

私がニューヨーク育英学園に転入して、一年以上がたった。それゆえにアメリカ生活、学園生活も限られた時間になりつつある。私は、育英学園が大好きだ。その理由の一つに友達がおもしろいということがある。私はこの学校にきて、おどろいたことは授業中にもみんながたくさん笑い、先生もみんなを肯定してくれくれるこんな学校は初めてだった。友達にこの事を話したら、大変共感してくれた。授業が楽しい、学校に行きたいと思えることは、本当に素晴らしいことだ。

また、この学校は行事が多い。一学期には移動教室、運動会に水泳がある、二学期にはハロウィンパーティーや学園祭、クリスマスパーティーがあり、三学期はもちつき大会とスケートがある。移動教室は日本の学校より日程が長く、スケートは日本の学校ではめずらしい。ハロウィンパーティーやもちつき大会など、楽しいこともたくさんある。時には他学年とも交流できる行事も多く、それは私にとって楽しい行事でもあるのでうれしい。

他にも学習面では、私は英語が読めなかったが、今ではスラスラと読めるようになり、英検の勉強にはげんでいる。しかも、毎週金曜日はオールイングリッシュデイがあり、一日中英語で授業を受ける日だ。最初のうちはしんどいかもしいないが、少しずつ慣れていく。毎日一時間ある英語は、先生の言うことができるかなりわかるようになり、次は英語を話す力もつけていきたい。私の英語力はどんどん伸びていると思う。

私はまだ小学生で私の世界はまだ限られているけれど、英語が話せるようになったらもっと広がっていくようなので、その日を心待ちにしている。みんなは英語を話す人は日本語を話す人の何十倍の人がいるか、考えたことはあるだろうか。アメリカにいると日本が小さな国だということを感じるし、尊い国だとも感じる。移民の国は雑多な印象も受けやすいが、すぐ力強くて、その上寛容だ。この国に自分があるのが不思議でもあり、自分もアメリカの一員として受け入れられているのが面白くもある。

アメリカは、チャリティーにも力を入れているように思う。お店で会計時に寄付をするか聞かれたり、クリスマス時期はToy Driveというチャリティーイベントがあり、新しいおもちゃを恵まれない子にプレゼントをする企画があったりする。

また日本人は忍耐強いと言われるけれど、アメリカ人もそうだ。以前寒波で飛行機がキャンセルになった時に、現地の人は文句も言わず、長い長い列に並び別便の予約待ちをしていて、こちらがびっくりしたほどだった。

そんなアメリカを知るうちに、もっとアメリカにいたいと思ってしまうようになってきたけれど、最初から現地校に行くなんてことはとても考えられず…。そんな私にとって育英学園は本当にありがたい存在だった。

親の海外赴任先に日本人学校があるとは限らないそうなので、私は幸運だった。だから将来、私が大人になり立派に成功していたら、恩返し気持を込めて学園に貢献できるような人でありたい。